

2021-22 年度 国際ロータリー会長

シェカール・メータ氏のプロフィール&メッセージ

Shekhar-Mehta (シェカール・メータ)

Calcutta-Mahanagar ロータリークラブ所属

(カルカッタ・マハナガル RC) インド



1984年にロータリークラブ入会。RI 理事、各種委員会の委員と委員長、ゾーンコーディネーター、研修リーダー、ロータリー財団専門家グループメンバー、地区ガバナーを歴任。ロータリー財団（インド）の理事長も務め、超私の奉仕賞、ロータリー財団功労表彰状と特別功労賞を受賞。

会計士であり、自身が設立した不動産開発会社「Skyline Group」の会長。カナダを本拠とする「Operation Eyesight Universal (India)」のディレクターも務めています。

災害救援に熱心に携わり、シェルターボックス（英国）の管理委員も務める。2004年のインド洋大津波の際には、被災した家族のために500戸近い家屋の建築を支援しました。

南アジアで1,500件以上の心臓外科手術を提供したプログラムを立ち上げる。インド全土での識字率向上をはかる「TEACHプログラム」の創設にもかわり、このプログラムを通じて何千もの学校に支援を提供しました。

ラシ夫人と共にメジャードナー、遺贈友の会会員としてロータリー財団を支援しています。

メータ氏は、現在の会員傾向には課題があり、会員増強がロータリーの最優先事項となるべきであると述べています。地域的な計画、ローターアクターのロータリークラブへの移行、多様性と女性会員の増加によって、毎年5パーセントの会員数純増が達成できると確信しています。

「世界の各地域に合った効果的な解決策を模索するために、大規模なブレインストーミングが必要です」とメータ氏。さらに、地域的な解決策を引き出すためには、各地域の価値観や文化を念頭に入れるべきとし、「1つのやり方をすべてに適用することはできない」と話します。

また、ロータリーが新しい地域や国に拡大していくことができると考えています。

ロータリーの戦略計画の一部として、クラブが行動計画を用いることを奨励すると共に、ロータリーの中核的価値観を強化する計画です。

メータ氏はさらに、政府や企業とのパートナーシップ、ロータリーの重点分野を専門とする組織とのパートナーシップ拡大、テクノロジーへの投資に焦点を当てることで、ロータリーがより現代化し、適応力を高める必要があると述べています。